

# 1 TI マネージャーのダウンロード/インストール

2015.5.20 作成

RigExpert の サイト ( <http://www.rigexpert.com/index?f=downloads&l=jp> ) から最新版の SetupRET18.exe ファイルをダウンロード・起動し、画面の説明に従ってドライバーと TI マネージャー・ソフトをインストールします。

インストール後、TI マネージャーは自動起動します。TI マネージャーは TI-8 の動作に必要不可欠です。

TI マネージャー・アイコンは Windows のシステムトレイかデスクトップに、又は両方に表示されます。

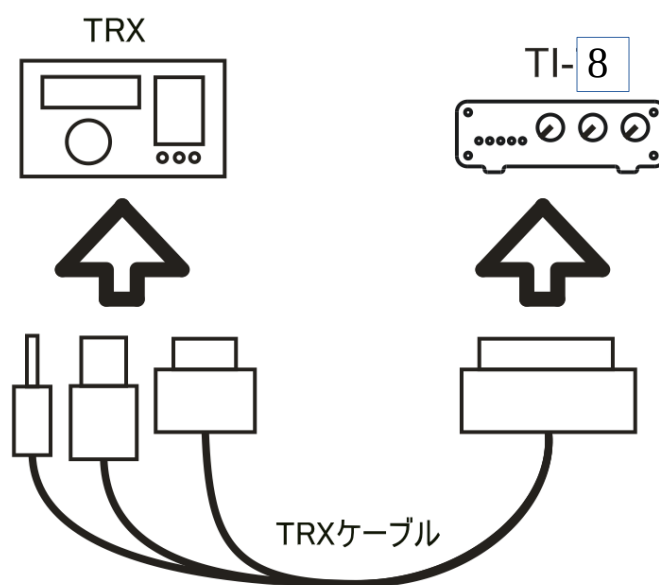


# 2 RigExpert TI-8 をトランシーバに接続

TI-8 とトランシーバ (以下 TRX) を各社 TRX に特化した TRX ケーブルで接続する。

TI-8 に D サブ 25 P を接続し、TRX に専用ケーブル他端の全てのコネクタを接続する。

全てのコネクタが正しく確実に接続されている事を確認する。

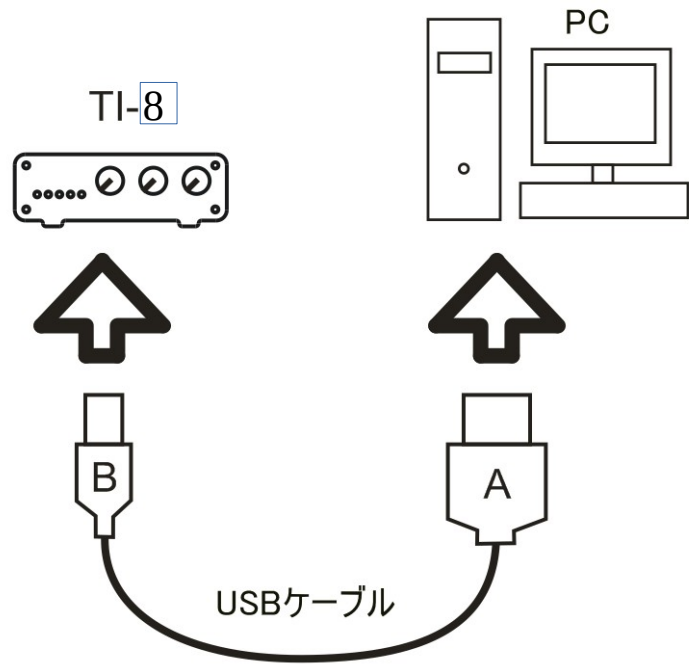


### 3 RigExpert TI-8 を PC に接続

TI-8 と PC を通常の USB A-B ケーブル(長さ 5m 以内)で接続する。

PC 裏面 USB ポートに接続を推奨。

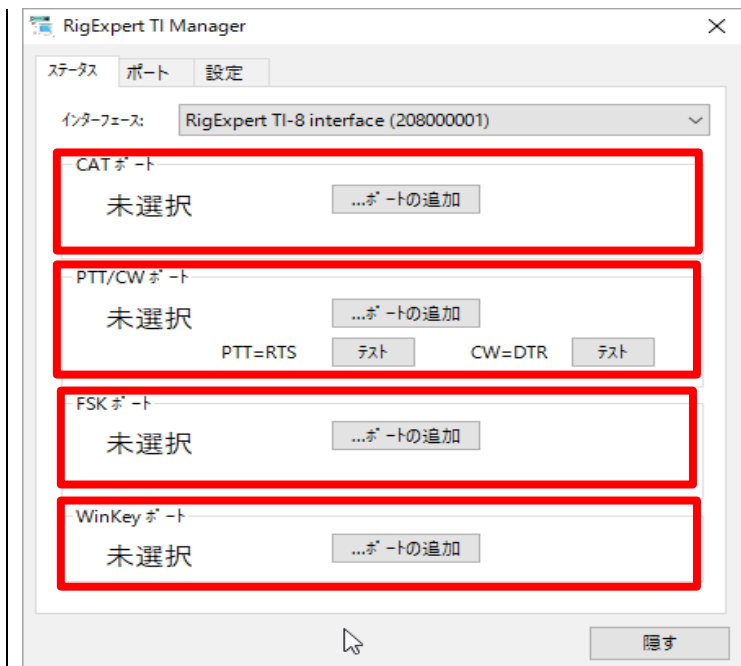
ケーブルを接続すると、PC は TI-8 を自動検出します。



### 4 TI マネージャーの設定

TI マネージャーで仮想シリアルポートの設定を行い、PC と TRX が通信できるようにします。

インストール直後の起動では、右の様にポート番号の代わりに**未選択**が表示されます。

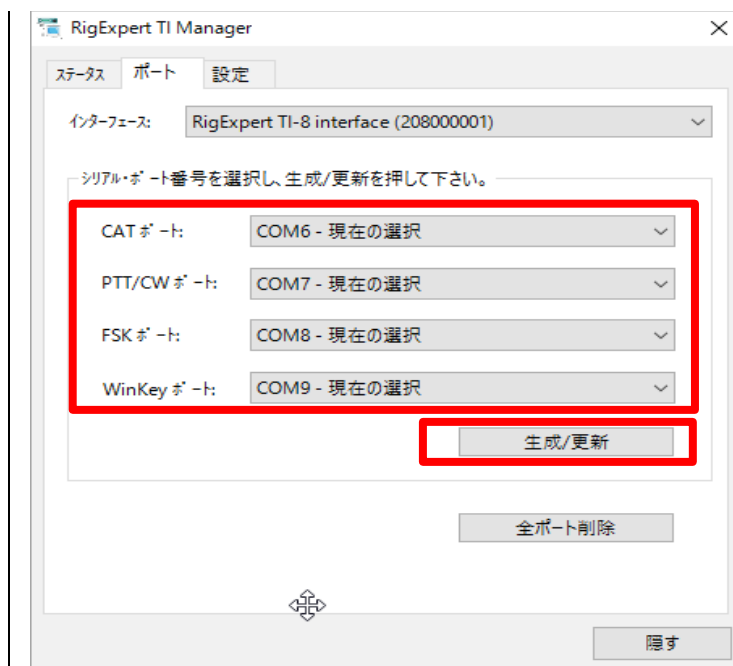


## 4 TI マネージャーの設定・・・続き

ポートタブから CAT, PTT/CW および FSK ポートに重複しない任意の番号を割付ます。

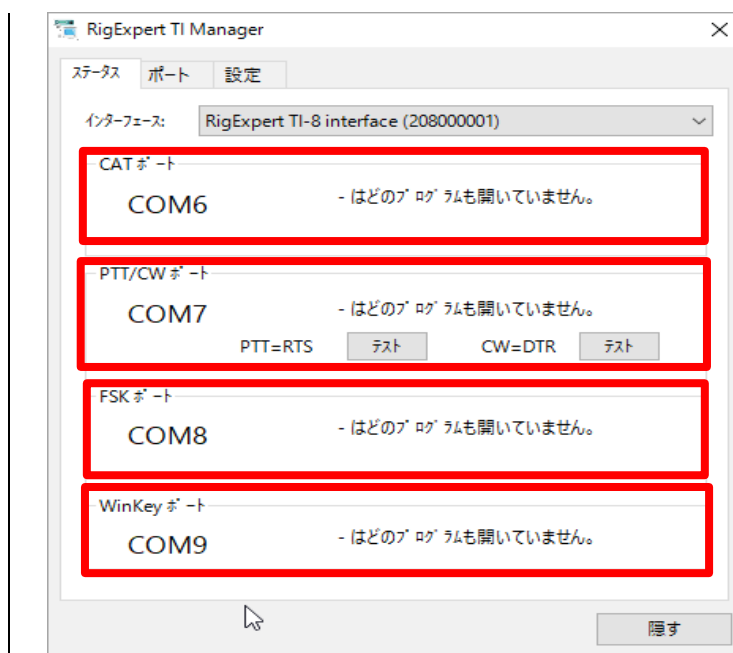
右図は、それらの機能に **COM7, COM8, COM9** および **COM10** を割付けた時の例です。

最後に**生成/更新** ボタンを押して設定を更新します。



数秒後に仮想シリアルポートが構成されて、**ステータス** タブを開くと COM ポート番号が割付けられているのが判ります。

右下の**隠す** ボタンを押すとプログラムは Windows のシステムトレイに収納され、常駐待機の状態になります。



## 5 電話・CW・デジモード運用の設定

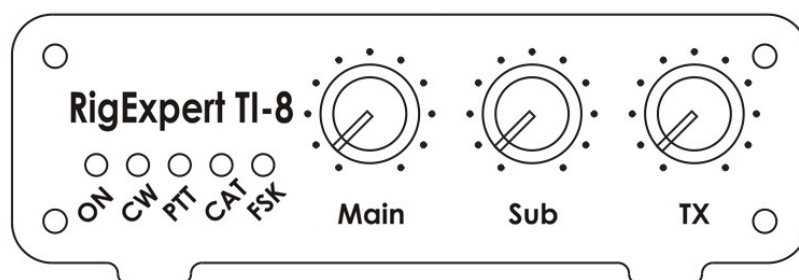
TI-8 は次のソフトを対象に製品化されています。それ等のソフトとは、MixW, MMTTY/MMSSTV/MMVARI, HRD, WinTest そのほか多数。概ね下記のハード関連の設定はソフトで処理されます。

- サウンドカード入出力の選択、マイク (\* - USB Audio CODEC) とスピーカ (\* - USB Audio CODEC)。注意: マイクおよびスピーカの命名は Windows が行いますので、PC によっては「デジタル オーディオ インターフ」と表示されます。
- CAT ポートの選択、本冊子の例では COM7。ポーレート他のパラメータは TRX の取説に従って下さい。
- PTT と CW 出力 (PTT は RTS に、CW は DTR に割付けられます) ポートの選択、本冊子の例では COM8。
- FSK 出力を使うソフトでは、シリアルポートに FSK 機能を割付けます。本冊子の例では COM9。(場合により、設定 タブの FSK 極性反転 にチェックを入れる必要があります。)
- WINKEY ソフトを使う場合は、シリアルポートに WINKEY を選択します。例では COM10。

個別のソフトの設定に際しては、取説とかヘルプを参照下さい。

## 6 運用開始！

TI-8 前面の5つの LED はソフト設定時および運用中の動作確認に役立ちます。



**Main** と **Sub** のボリュームは入力レベル設定用で、**TX** ボリュームは出力用で送信レベルの設定用です。